

“宇宙を視座に大人が変わる 子どもが輝く 美しい星が生まれる”【子どもと宇宙と未来をつなぐ】

このようにコロナ前とコロナ禍では、事業手法を大きく見直す必要がありました。事務局ならびにアルバイトで協力していたいただいている方々には、今までと異なる視点で業務を精力的に推進していただきました。

具体的には、ホームページ内のクレジットカード決済システムの導入です。これにより、今後、教材販売、会員の会費納入などの利便性が向上し、収益増につながる可能性が出てきました。

オンライン会議システムの活用
クレジットカード決済の導入

コロナ禍で培ったオンライン会議システムを利用した「宇宙の学校」、「宇宙教育セミナー」、「オンライン講座」などオンライン向けの教材キットを準備しました。

令和3年度の活動から

コロナ禍は新たな糧
未来ある子どものために、前向きに事業推進

特定非営利活動法人子ども・宇宙・未来の会
副会長 稲葉 茂

コロナ禍2年目となりました。しかし前年度のように活動は中止せず参加者や主催者の安全安心を第一に、感染対策を講じながら徐々に事業を再開していった一年となりました。

他団体との連携した事業推進
宇宙開発関連企業や学校教育分野での、新たな事業展開の可能性も見えてきています。私たちは、コロナ禍においてもそれを新たな糧の資源ととらえ「未来ある子ども」のために前向きに事業推進していく気持ちを常に持っています。

今後ともこれまで以上のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



↑「宇宙の学校®」オンラインで開催模様／パソコンの画面

同封の総会資料をご確認ください

会員の皆様へ KU-MA 通常総会のご案内

- ◆6月15日(水) 13:30～
オンライン (Zoom) にて開催
- ◆令和3年度の活動や決算報告
- ◆今年度の事業計画案、予算案など審議予定

▶正会員の方は議決権もございます。
同封の総会資料をご覧ください。
6月10日(金)までに、表決書のご返送をお願いいたします。
お手数をおかけいたします。

▶賛助会員の方も是非ご参加下さい。

参加の詳細につきましては、メールマガジンでお知らせいたします。
たくさんの方のご参加をお待ちしております。

事務局より

活動報告

自主事業

4/2,3 オンライン講座家族で楽しく学ぶ「宇宙の教室」
5/21 令和4年度第1回理事会

イベント支援等

4/24 島根県安来市さんそ学習館ケイオス宇宙教室

「宇宙の学校®」

5/22 長泉会場からスタートしました。

今後の活動予定

- ・6/15 令和4年度通常総会
- ・「宇宙の学校」が続々開校式を迎えます。
各地域の開催日程はホームページをご覧ください。
- ・その他イベントや講演依頼など、多数のお問い合わせをいただいています。

会員情報

正会員 166(個人:152 学生:0 企業・団体:14)
賛助会員 47(個人:36 企業・団体:11)
みなさまの会費や寄付金が運営費の一部となり、KU-MA活動を展開させていただいております。
日頃のご支援に心より感謝を申し上げますとともに、引き続き、活動および活動資金へのご協力をお願いいたします。
当会への寄付(賛助会費含む)は、寄付金控除の対象となります。詳しくは Web ページでご確認ください。

【編集後記】

新年度になってから、イベント実施についての問い合わせが以前より増えてきました。いわゆる社会、経済を動かすという流れなのでしょう。子ども達は楽しみにしているでしょうし KU-MAとしても嬉しい事なのですが、ピークと比べたら減ったように見えても陽性者数はまだ多い。基本的な対策が緩んでいないか再確認して活動していこうと思います。(た)

■会員募集中！！

- ◇正会員：KU-MA のミッションに賛同し、活動を推進する個人/法人・団体
年会費 個人：10,000 円(学生 5,000 円)、法人・団体：50,000 円
 - ◇賛助会員：KU-MA のミッションに賛同し、寄付いただける個人と法人・団体
年会費 個人：10,000 円、法人・団体：100,000 円
- ※個人賛助会員への会員証の発行、メールマガジンの送付は50人以上からです。

■会費や寄付金のお振込先

【会費や寄付金のお振込先は下記の口座へ】
横浜銀行 刈野辺支店 普通預金 1768456
特定非営利活動法人子ども・宇宙・未来の会
会長 並木 道義

「宇宙の学校®」今年もスタートしました



5/22 長泉会場からスタートしました。熱気球はみんなで作らず、家族ごとに作れるようにしました。上坂理事も視察で参加しました。詳しくは次号で！

おすすめ書籍

「はやぶさ2」が拓く
人類が宇宙資源を活用する日
川口淳一郎 著 ビジネス社

新理事の著書を紹介です。
地球の外から資源を持ち帰る、以前から構想はあっても夢のような話が「はやぶさ」と「はやぶさ2」で現実となり、本格的に資源を宇宙から持って帰るのが当たり前になるかもしれません。そんな世界の情勢と、日本の宇宙開発はどうするのか？ぜひご一読ください。



事務局からお知らせ

- ◇今号から会員の方が会報レイアウトなどの編集作業をボランティアでお手伝いして下さることになりました。より見やすい会報誌を目指してまいります。
- ◇ついに KU-MA で Twitter を開設しました。
https://twitter.com/npo_kuma
🔍 KU-MA 子ども・宇宙・未来の会で検索

「子どもの宇宙」を広げ 未来を豊かに

KU-MA は JAXA 宇宙教育センターと宇宙教育活動に関する協定書に基づき、連携・協力しながら宇宙教育活動を推進しています
「宇宙の学校®」は、KU-MA の登録商標です

認定NPO法人 子ども・宇宙・未来の会 「宇宙の学校」事務局
〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台3-1-1 JAXA内
電話・FAX : 042-750-2690
E-mail : KU-MAs@ku-ma.or.jp
ホームページ : <https://www.ku-ma.or.jp>

KU-MA とわたし 賛助会員(団体)
 特定非営利活動法人こまき市民活動ネットワーク
 事務局長 関 哲雄

愛知県小牧市の中間支援組織として、市民、NPO 団体、行政、企業など様々なステークホルダーが互いに協力し合いよりよいまちづくりを推進する様コーディネートするいわば「つなぎ役」として活動しています

主な事業
 小牧市が設置した「市民交流テラス・ワクティブこまき」の管理運営や、NPO 団体向けの講座や交流会を企画しています。

企業 CSR 支援活動を協働開催
 現在 KU-MA とは、小牧市内の企業の社会貢献活動として、その企業の得意とする技術を取り入れた工作体験教室を協働開催させていただいています。
 毎年夏休みに近隣の小学生（親子）から募集定員を超える応募があり、趣向を凝らした工作と工場見学会に、みなさん驚きや喜びの声を上げています。

企業からも高評価
 企業側からも若手社員が子どものサポートをしたり、社内を案内したり地域と触れ合う大変良い機会だと高評価をいただいております。

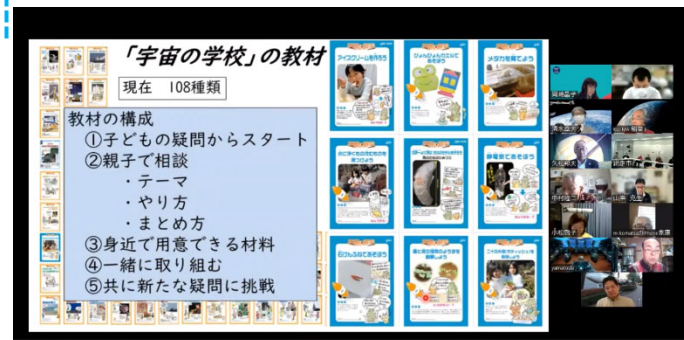
体験学習と地域のふれあい
 近年インターネットやSNSで情報収集がとても手軽に行える世の中です。そんな世の中であればこそ、自分の目で見て触れてみる体験学習、また地元企業を含めた地域の人たちと触れ合う機会はとても大切だと思います。KU-MA をはじめ、これからの様々な立場の人たちとともに社会貢献を通して子どもたちの探求心や郷土愛を育む機会を作っていきたいと思います。



ホームページの画像から↑

KU-MA 設立(2008 年) から 14 年を迎え
 私たちは育み支えます

KU-MA は、個人や企業・団体等、会員の皆様の会費や寄付金により活動をさせていただいております。今回は「宇宙の学校®」や企業 CSR 支援活動で連携している個人・団体会員をご紹介します。



↑
 2021 たまプラーザ
 宇宙の学校 開催模様
 柴崎先生(写真)

←オンライン
 特別セミナーの
 画面(下記参照↓)

うちの「宇宙の学校」正会員
 「たまプラーザ・宇宙の学校」

会員 柴崎 和夫 元・國學院大學教授
 大学の学部として地域連携の成果となり、参加児童・生徒
 保護者にも喜んでもらえ三方一両得に

開校のきっかけと経過
 13 年程前、國學院大學たまプラーザキャンパスに「人間開発学部」が新設し、私も広義の「理科教育担当」教員として、新学部の初等教育学科に移籍した。新学部の方針として「地域連携」があり、周辺地域の方々との交流について、企画募集があった。理科教育担当であった私は、すぐ「宇宙」というキーワードが浮かんだ。近隣の小学生を集めての「星の観察会」などは、十分に集客力があるであろう。しかし、このアイデアはすぐに挫折した。種々の制約から、夜間(深夜)のキャンパス立ち入りが教職員さえも禁止なのであった。そんな時に会ったのが「宇宙の学校」だった。
 実は、何時、どのように「宇宙の学校」のことを知ったのかは思い出せない。

KU-MA の名誉会長的川さんは、私の大学の運動部(軟式庭球部・ソフトテニス部)の大先輩。かつて東大宇宙研が駒場にあったころ、現会長の並木さんも一緒にテニスを楽しんだことがあったような(曖昧な記憶です...)。その的川先輩が始めたということとをどこかで聞いたような。

三方一両得
 学生にも学びの場になる(少しは理科力も向上?)、学部として地域連携の成果となる、参加児童・生徒・保護者にも喜んでもらえる、三方一両損ならぬ、三方一両得(?)の企画だと自画自賛した通り、学部でも認められ、費用援助を得られることになった。こうして10年以上継続している「たまプラーザ宇宙の学校」が開設できたのである。
 この13年の間に、金環食や90%以上が欠ける部分日食、月食、毎年の流星雲などがあり、キャンパスが夜でも解放できればもっと色々な企画も可能だったと、それは残念に思っている。

地元で「宇宙の学校」を
 今年3月末で大学は退職して、今は、子供たちの教育の格差連鎖に抵抗するため、ささやかなりとも力になれるよう学習支援のボランティア団体の手伝いをしている。ここさいたま市でも「宇宙の学校」を開設できればうれしいのだが。

「宇宙の学校®」10 周年記念事業
 特別セミナー講座をオンラインで
 2022 年 3 月 27 日(日)10 時~12 時 30 分

本来ならば2019年度に「宇宙の学校10周年記念事業」を全国4会場で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2020年3月に実施を予定していた2会場が延期となりました。「感染状況が改善したら」と開催時期を待っていましたが思うようにはいかず1~2年が経過。オンライン講座として再構成し、今年3月に実施いたしました。

企画内容

講演1
 「宇宙教育と宇宙の学校」
 副会長 稲葉 茂

宇宙教育の理念と宇宙の学校について「宇宙教育」という言葉から、「宇宙の事を学ぶ教育」という誤解が生じてしまうことがあります。講演では「宇宙教育」の理念や「宇宙の学校®」を例に宇宙教育活動でめざしていることについて話がありました。

情報交流

宇宙の学校の、長崎会場と網走会場の主催者に、活動例を紹介していただきました。開校した経緯と、メンバーの紹介活動の特色や今後の課題をお話いただきました。どちらも始まってから十年経っていて、継続していくために若いメンバーを入れたいとおっしゃっていました。

講演2
 「わたしが宇宙で学んだこと」

理事 清水 幸夫

ISAS(宇宙科学研究所)から、JAXAに移動、勤務しておこなった電気推進の研究開発から、その後、安全品質保証や広報・普及、教育活動に携わるようになりました。そのきっかけ、最近の宇宙情報なども交えてスピーチ。

「わたしが宇宙で学んだことは宇宙の研究や開発を行う最終的な目的は、地球または人類や生物の「未来」を確保し、地球を守ることである」との結論で締めくくりました。その深い想いに感銘を受けた方は多かったのでは!

*清水氏は1月に理事に就任しました

【主催者より】

▼参加者に会えないのはちょっと残念でした。しかしオンラインなら会場に行く手間がなくなり、端末と回線さえあればどこからでも参加できるメリットもあります。逆にその環境が身近にないと参加しにくいと感じてしまう場合には、機会が無くなるので、喜んでばかりもいられません。...
 ▼当日は25名が参加。終了後のアンケートにもご協力いただき、好評をいただきました。
 ▼参加された方の中から、後日、数名の方がご入会いただきました。
 有意義な記念事業となりましたことを、ご報告いたします。